

(連載「ワイワイガヤガヤ経営品質」)

三重県経営品質協議会運営委員長 長友隆司 (Kairos 社長)

三重県での経営品質向上活動

今回から三重県を中心に経営品質に取り組んでいる企業や団体などについてご紹介していきます。

まずは、私が委員長を務めている「三重県経営品質協議会運営委員会」のお話をさせていただきます。そもそも三重県経営品質協議会は2001年に創設されました。創設の主体は三重県。行政主導で誕生したということが特徴の一つです。創設3年目を迎えた2004年に、協議会活動の本旨は、官民一体となった協働にあるのでは、との観点から現在の運営委員会が構成されることになりました。

メンバーは「この指、止まれ」方式で、集まっていたき、スタート時点は7人でしたが、現在では20名前後の人たちが運営に関わっています。「前後」と数字が確定しないのは、基本的には運営委員は「出入り自由」だからです。組織の形態を柔構造にしておいた方が動きやすく、人材も資源も限られている「田舎の知恵」ということでしょうか。いつもワイワイガヤガヤといろんな人を交えて活動を行っています。

創設当初は経営品質向上活動の普及が主たる目的でしたが、最近は様々な活動を行っています。活動に際して、地方の現実はなかなか厳しいものがあります。ネットがあるじゃないか、という声もありますが、経営革新という側面から見ると中央と地方の格差はまだまだ大きなものがあると思います。中央なら、生産性本部が開催する様々なセミナーや勉強会など、求めればいくらかでも場はあると思います。

しかし地方だと、たとえば三重県の南部、尾鷲・熊野から東京に出ていくだけで一日仕事、さらにセミナーを受けて帰ってくると相当な時間と出費を覚悟しなくてはなりません。それは当然だとおっしゃる声があるのも重々承知していますが、日々の苦しい経営の中から費用と時間を捻出するつらさは並大抵のものではありません。

いつの頃からかはわかりませんが、確信犯的に始めたわけでもありませんが、同協議会では経営品質向上活動の普及のほかに、大企業や大規模組織が持つノウハウや知恵をなんとか中小企業や地場の組織に移転する活動が大きな要素になってきました。東京に行かなくても自分たちの仲間から学ぼう、自分の仲間は自分たちで支えようという活動です。

運営委員の手作り企画やセミナーは会員企業や組織の方々から「おもしろいなあ」と伊勢弁でじわっと受け入れられるようになりました。規模の大小ももちろんですが、行政や民間という垣根を越え、いかに一緒に動くか、いかに知恵を移転するか、などの活動に比重が移ってきているように感じています。

私たち三重県人は「伊勢商人」の末裔です。最近の伊勢商人の代表格はイオングループ、かつての岡田屋です。岡田屋は四日市の本店・老舗。その家訓に「大黒柱に車を付けよ」というものがあると聞いたことがあります。機を見て敏であること、そして大黒柱さえ動かすことを厭わない変革の姿勢。なかなかそうはいきませんが、日々精進しかありません。近くにお越しの際は、三重県庁近くの産業支援センター5階をお尋ねください。損はさせない「つもり」でお待ちしております。

筆者略歴

長友隆司 (ながともりゅうじ)

本田技研工業、鈴鹿富士ゼロックスを経て、2005年に独立。三重を中心に企業・行政組織等の経営革新の支援活動を行っている。